

科目名	吃音			授業の種類	演習	講師名		
授業回数	15回	時間数	30時間 (1単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科3年	後期	必修・選択	必修
〔授業の目的・ねらい〕								
吃音および発話・発語の非流暢性についての理解を深める。								
〔授業全体の内容の概要〕								
吃音について理解し、それに対する評価法と治療・訓練の方法を学ぶ。								
〔講師の実務経験〕								
明石仁十病院、姫路聖マリア病院、入江病院にて言語聴覚士として18年間勤務								
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕								
吃音は言語障害の範疇においても、得意な様相を示している。その特性を知り、状態を把握して言語聴覚士として適切な対応がとれる知識・技能の獲得を目指す。								
回数	講義内容							
1	吃音とは何か 吃音の症状やエピソード							
2	吃音の定義							
3	吃音発生のメカニズム							
4	吃症状（その1）							
5	〃（その2） DAF 効果実験							
6	吃症状の特徴把握							
7	基本機能検査							
8	吃に関連する検査							
9	心理検査							
10	訓練の種類と理論的背景							
11	環境、調整							
12	間接的言語訓練							
13	直接的言語訓練							
14	メンタルリハーサル、自立訓練等							
15	吃音に関わるトピックス、セルフヘルプグループ等							
【 準備学習・時間外学習 】								
【 使用テキスト 】								
書籍名			著者名			出版社		
エビデンスに基づいた吃音支援入門						学苑社		
【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】								
筆記試験にて評価する。								